



The Australian Outback

「Australian Outback」(アウトバック)というのはオーストラリアの田舎のようなものです。ただし、アメリカや日本と違って、オーストラリアの内では人が住めない天気模様のところも多く、Australian Outbackと思うと、果てしなく広がる平地の赤い砂と散らばる低木を思い浮かべます。The Outbackはオーストラリアの広大な大陸の4分の3を占めますが、560万平方キロにわたって全人口のわずか5%がそこに住んでいます。



Outbackと指定されている範囲
オーストラリアのほぼ4分の3

この地方には7つの砂漠があり、砂漠はオーストラリア大陸の5分の1にわたって、砂漠での生活に適応している多くの動植物が生息しています。恒久的な水源が乏しいため、この砂漠地帯には大きな町はありませんが、小さなオーストラリア原住民のコミュニティが数多く存在し、鉱山採掘のためのコミュニティも存在しています。

特に西オーストラリアではたくさんの鉱山が営業しています。オーストラリアはとても広く、各鉱山地は他のところからかけ離れていて、そこで町みたいなものがありますが、鉱山で働いている人たちはその町に住んでいるとは限りません。実はほとんどはそうじゃありません。遠く離れたところに鉱山仕事は沢山の労働者が必要ため、FIFO(ファイフォー)「Fly-In Fly-Out」というシステムがあります。例えば西オーストラリアだったら、州都のパースから飛行機に乗って鉱山地に1週間~1か月間働いて、同じ仕事ができる人と交代して、またパースで働いた分を休みます(例:2週間鉱山で働いたら、2週間で休むこととなります)。その仕事は体や精神的に疲れとリスクがあるため給料も相当高いです。

Outbackの景色。
永遠に続く赤い砂と
散らばる低木。



西オーストラリアのキムバーリーにあるミッチェル滝

鉱山と他に誰かが「Outbackに行く」と言ったら、「キャンプのつもりでしばらく帰ってこない」と自然に思い浮かびます。ですが、人気のないOutbackは危険が多いところです。準備が足りなければすぐに遭難してしまうこともあり、熱中症のため暑さ対策や水の管理が大事で、色んな危険生物も存在しています。熊みたいな巨獣はオーストラリアに存在しませんが、毒を持っている爬虫類や昆虫類が多く存在します。ブラウン・スネークというオーストラリアに多く存在する毒蛇に噛まれたら、解毒剤がないと最悪の場合30分で死に至ります。そのためにフライング・ドクターという小型飛行機を利用して病院から遠く離れた患者を移送する事業があります。フライング・ドクターは23か所の空港基地があり、携帯電話や無線電話で連絡することが出来ます。



オーストラリアで一番暑いところと呼ばれているマーブル・バー町は今年のお正月に51℃になりました。もちろん火事の恐れで花火は禁じられました。

The Australian Outbackはたくさんの壮大な自然があって、その景色を全部見るために数年をかけてオーストラリア全国を一周しに、日本人を含め世界中の国から多くの外国人が来ています。実はOutbackにいる農家たちはその外国人が来ることを頼っていて、いる間に労働者として雇って、旅をしている人はそれで稼ぐことが出来ます。ぜひ皆さんも一度オーストラリアへ旅をする事を考えてみてください！



ブルームにある「月への階段」。
この現象は満月の光がたくさんの干潟に当たって、
階段のように見えます。

※ブレットさんの原文をほぼそのまま掲載しています。